

認知症の予防と漢方・鍼灸治療

新宿漢方クリニック 鐘 良辰

認知症はいきなりやって来る病気ではなく、生活習慣と老化に深く関係します。したがって生活習慣を考慮してこそ認知症の予防ができると云えます。

老化は漢方医学では腎と関係があります。補腎をすれば老化防止、認知症予防につながるのです。「腎」は髓の海つまり脳とつながります。腎の老化は髓海の衰弱（記憶力、聴力、視力、骨、排せつ力の低下）になるわけです。認知症は発病までの未病期間が比較的長いので未病対策として認知症予防をすることができるのです。

ところで未病体質は、正常と比べ特異、気虚、陽虚、血虚、陰虚、痰湿、於血、気鬱に分けられます。それらの対策は、補気（人参、黄耆など）、補陽（附子、桂皮など）補陰（地黄、麦門冬など）、補血（大棗、龍眼肉、阿膠など）、祛痰化湿（陳皮、半夏など）、活血化於（桃仁、紅花、丹参など）、理気（カッコウ、香附子、枳実など）が原則で、それらの未病対策がすなわち認知症予防と治療になります。

三焦弁証：脳は、上焦（心肺）、中焦（脾胃）、下焦（肝腎）つまり五臓六腑から影響を受けるため三焦のバランスを取ることが認知症の予防治療になります。

認知症 Gold-QPD 育成講座で応用する「三焦鍼法」は、三焦の気血を調節し脳血流を改善する鍼灸で、足三里、外関、血海、気海、中脘、膻中の6穴9鍼が基本となります。そのため肝腎、脾胃、心肺の気血の調節で脳を元気にする働きが期待できます。必要に応じ百会、四神聡、太陽、三陰交などの経穴刺激により充実した反応を得ることが出来ます。

新宿漢方クリニックは、「三焦漢法」として、上焦に対し釣藤、川芎（活血）を、中焦に対し茯苓、山薬、蒼朮、半夏（健脾養胃）、下焦に対し六味地黄丸、補腎、理気、陳皮、カッコウ、益智（ストレス発散）、補気補血、大棗、龍眼肉（体力増強）、安神、遠志（安眠作用）を処方します。通常生薬のほぼ1/3量の簡易煎じ薬（新漢煎2号）として独自の生薬処方を実践中です。認知症患者さんはその服用により、やる気が出た、睡眠が良くなった、食欲が出た、便通が良くなった、明るくなったなどの効果を示しております。

理気健脾の方剤である抑肝散加陳皮半夏（日本の創薬）は、一般に神経症、不眠症、うつ病、認知症を改善しますが、理気化痰の生薬である陳皮、燥湿化痰の半夏などとともに、認知症周辺症状に対してかなりの効果があります。

西洋医学の研究で認知症の脳にアミロイドβ蛋白の蓄積がありそれは脳CTで明瞭に認められます。中医学では、脳にあるアミロイドβ蛋白を、「見えない痰が溜まっている」と昔から認識しています。中医弁証では痰濁上犯で意識朦朧、判断力低下、痰迷心蔽（幻視、幻覚、幻聴、徘徊）があるとされますが、これらはまさに認知症周辺症状です。その治療には痰を消す（化痰薬）として陳皮、半夏、白芥子、杏仁、蒼朮、茯苓を使います。

まとめ：未病体質は9種類あり、その体質改善は未病治療といえます。未病の予防・

治療は認知症予防・治療になります。新宿漢方クリニックは「三焦漢法と三焦鍼法」で認知症の予防と認知症周辺症状の緩和治療に対応しております。